

No. 301

# 全 仏

9/59



## 白馬寺

後漢の明帝が永平10年(AD67)に建立した中国最初の仏教寺院とされる。インドの経典と仏像を白馬に背負わせて帰国したという故事に因む。

全日本仏教会

# 全仏理事会ひらく

## 局内人事などを承認

全日本仏教会の理事会が、去る七月二十日午後一時から京都グラランドホテルで開催された。

矢萩事務総長挨拶、阿部理事長三掃依文唱和の後、議長に阿部理事長、議事録署名委員に、来馬規雄、浅野秀慶の両師を選んで議事に入った。

議案第一号「事務総局人事異動の承認を求める件」

担当局長から説明。事務局原案を承認。議案第二号「第四回世界宗教者平和会議(WCRP4)に対し、同和問題への取りくみに関する総括声明発表の承認を求める件」

担当局長から説明。第四回世界宗教者平和会議へ全仏から代表を派遣し、総括声明の発表を行うことを承認。声明文については、事務局案が朗読された後、活発な質疑応答が行われ、理事、同和委員、事務総局の三者で特別委員会をつくり、常務理事会へかけることになった。

議案第三号「部落解放同盟の緊急質問状に対する本会の見解表明について」  
担当局長から説明。質疑応答の後、第二号議案で設置された委員会で、本会の見解について協議することになった。

報告事項  
①「靖国神社公式参拝問題に関する本会

の声明について」  
②「宗教法人に対する最近の税務行政と本会の取りくみについて」

③その他  
担当局長から報告。その他では、第十七回日本仏教文化会議、第十四回世界仏教徒会議について報告された。

## 常務理事会で回答書 など二つの議案承認

全日本仏教会の常務理事会が、八月八日午後一時から明照会館会議室で開催された。

矢萩事務総長挨拶、阿部理事長三掃依文唱和の後、議事録署名委員に貝山宣泰、山本杉の両師を選んで議事を開始。

議案第一号「部落解放同盟よりの緊急質問状に対する回答書について」

担当局長から説明。回答書(別記)については事務局原案を承認。早急に部落解放同盟へ提出することになった。

議案第二号「第四回世界宗教者平和会議(WCRP4)に対し、同和問題への取りくみに関する総括声明発表の承認を求める件」

担当局長から説明。声明文の事務局原案を英訳して、第四回世界宗教者平和

会議で発表することを承認した。

### 報告事項

①WCRP4へ派遣される全仏代表者について

②第十四回WFB大会参加報告  
総長、次長から報告された。

## 質問状に対する回答

「空海の『性霊集』に関する緊急質問状」(部落解放同盟中央本部)に対する回答

### 質問項目一

「旃陀羅」は、梵語のチャングラ(Chandra)の音を移したもので、ヒンズー思想により、インド社会において古代より現代まで存在し続けている被差別階層、被差別民衆を指すものであります。しかし、これは単にインドのみにおける問題と考えるべきではありません。

『望月仏教大辞典』には「又旃荼羅、旃荼羅に作り、嚴熾、暴厲、執惡、或は險惡人、執暴惡人、主殺人、治狗人と譯す。即ち印度種姓の一にして、首陀羅の下に位する最も下賤なる階級を云ふ。増一阿含經第十八に「或は一人あり卑賤の下に生ず、或は旃陀羅種、或は噉人種、或は工師種なり」と云ひ、十誦律第九に「比丘往いて旃陀羅子比丘に語る、汝は旃陀羅種なり、出家受戒を用てせんや。汝應に人の手足耳鼻を蔽りて持て木の上に著くるを學び、死人を擔ぎ出して焼くを學ぶべし。是の如き種種の旃陀羅の技

術、汝應に學すべし」と言はゞ、輕毀心の故に一一の語は波夜提なり」と云ひ、高僧法顯傳に「旃荼羅は名づけて惡人と爲す。人と別居し、若し城市に入らば則ち木を撃ちて以て自ら異にす。人則ち識りて之を避け、相摺揆することなし。國中に猪雞を養はず、生口を賣らず。市に屠店及び沽酒者なく、貨易には則ち貝齒を用ふ。唯旃荼羅、漁獵師あり肉を賣るのみ」と云ひ、又玄奘音義第六に「旃陀羅。此の言は訛なり、正しくは旃荼羅と云ふ。此に譯して嚴熾と云ひ、又一に主殺人と云ふ。謂はく、屠殺者の種類の總名なり。其の人若し行くには則ち鈴を揺りて自ら標し、或は破頭の竹を杖とす。若し然らずば王則ち罪を與ふ」と云へり。之に依るに旃陀羅は獄卒、御坊、屠殺者等を總稱せるものにして、即ち道を行く時、鈴を揺り竹を杖づき、以て自ら標せしめ、人をして其の穢に觸れざらしめたるを見るべし。摩奴法典第十章第十二節に「首陀羅 sudra の男と、吠舍 vaisha、王族 kshatriya、婆羅門 brahmana の女とに依りて生まれたる雜混種 varna sankhara は、アーヨーガバ bhogava、クシャトラ ksatriya 及び最下級の人間なる旃陀羅 candala なり」と記するを以て見るに、此の種は首陀羅を父とし、婆羅門を母とせる混血種種なるを知るべし。蓋し旃陀羅は極惡卑賤の種族として古來最も賤められ、法華經第五安樂行品に「旃陀羅及び猪羊雞狗を畜へ、毆獵し漁捕する諸の惡律儀に親近せず。是の如き人等、或る時來らば則ち爲に説法して掃望する所なし」と云ひ、

又觀無量壽經に「未だ曾て無道にして母を害することあるを聞かず。王今此の殺逆の事を爲さば刹利種を汚さん、臣今聞くに忍びず、是れ栴陀羅なり。宜しく此に住せしむべからず」と云へり。是れ世俗の説に従へるものといふべく、故に摩訶經卷上には、婆羅門、旃陀羅等に何等の別もあるべからずとし、四姓平等の説をなせり。又正法念處經第十六、放光般若經第十四阿惟越致相品、舍頭諫太子二十八宿經、大乘大集地藏十輪經第四、大乘本生心地觀經第五、大毘婆沙論第四百一、法華玄贊第九、玄應音義第三、第二十一、第二十三、慧琳音義第一、第三、第九、第十二、第二十五至第二十七、第四十七、栴檀易土集第十三、外道哲學等に出づ」とありませう。

ヒンズー思想そのものの「旃陀羅」が、仏教經典にとり入れられ、中国仏教を経て日本に移入されました。そして、我が国においては、今日に至る迄「旃陀羅」悪人「穢多・非人」と解釈し被差別部落民衆に対する差別を助長、温存する場に立つてまいりました。

「旃陀羅」という字句そのものについては、今日的には差別語であるが、弘法大師の時代性、歴史性（もつと）と解明されて行かなければならない。つまり「律令体制下における賤民をおもつての差別意識はなかつた」という考え方であります。また僧として守るべき禁戒を破り、差別感をもつて、一味相合する僧伽を乱すというような行為こそ旃陀羅悪人であるという見方は、「生れによるものではなく行為による」とされた、釈尊のカースト観が、この場合多く見られるようです。さらに、真言系統の宗教観では、たとえば「一切衆生悉有仏性」という「人間本来清浄なり」の立場を取っていますよって「貴賤を云うことを得ざれ」とい

し、人間を差別してきた各宗派の体質を自らに厳しく問い直さなければなりません。本会は、現実において、差別を不当に合理化して参りましたことを厳しく捉え、改めて各宗派がこの事実を確認の上、部落差別、職業差別等人權の問題についての啓蒙啓発の徹底化を計る為、各宗派に働きかける所存であります。

質問項目二  
旃陀羅悪人並びに、空海の人間観についてであります。大きくは二分する解釈があり、その中でも真言各派の意見を総合して見ますと、若干の相違は認められますが、大同小異と見ることが出来ると思われませう。

今日、仏教の名において、仏法を否定

う平等の思想が生ずることも自然であり、弘法大師の差別意識は考えられないとする立場であります。

弘法大師の御生涯の中で、万濃池の改修や、日本初といわれる民間学校「綜藝種智院」の開設等、民衆の為に尽されてゐる事実から、弘法大師の偉大さを偲ぶ立場をもちつづけています。

しかしながら、変遷して行く長い歴史の中で、經典や諸論に見る「旃陀羅観」が温存されて行くうちに、時代権力への迎合や、あるいは介入する中で歪められ、助長され差別意識構造の中にくり込まれて行きました。

共同の立場や苦しみの共感に生きることの出来なかつた現代に生きる我われの前に本来の宗教者に帰るべく問い正された事を、真言各派あげて解消へ向つて努力しなければならぬ、としております。また、「旃陀羅」は、その訳に「屠殺者、不律義、悪人」等とみられる通り、大師の旃陀羅観は最下賤として規定する差別意識によつて表現されたと捉える一部の教団もありません。

本会は、深く今回の問を始め、多くの經典や論書に見る差別語の摘発研究とその解消の為に全力をつくすよう助言を重ねて行く所存であります。

質問項目三

現在、各宗派においては、当問題について鋭意点検作業が進められておりますが、目下のところ「性靈集」、「仏説觀無量壽經」及び「法華經」に、「旃陀羅」の語が見え、その他の經典並びに宗祖の言葉の中にも散見せられております。

第一、第二の質問への回答の中でふれております通り、今後各宗派内でこれら問題となつてゐる全ての經典及び宗祖の言葉等について、各宗派の専門機関で検討を重ねるとともに、全日本仏教会にもこれら各宗派の検討機関からの報告をつけて、さらに宗派を超えた研究機関、研究体制を作つて討議を重ねて行く所存であります。

質問項目二  
旃陀羅悪人並びに、空海の人間観についてであります。大きくは二分する解釈があり、その中でも真言各派の意見を総合して見ますと、若干の相違は認められますが、大同小異と見ることが出来ると思われませう。

共同の立場や苦しみの共感に生きることの出来なかつた現代に生きる我われの前に本来の宗教者に帰るべく問い正された事を、真言各派あげて解消へ向つて努力しなければならぬ、としております。また、「旃陀羅」は、その訳に「屠殺者、不律義、悪人」等とみられる通り、大師の旃陀羅観は最下賤として規定する差別意識によつて表現されたと捉える一部の教団もありません。

本会は、深く今回の問を始め、多くの經典や論書に見る差別語の摘発研究とその解消の為に全力をつくすよう助言を重ねて行く所存であります。

質問項目三

残暑御伺い  
申し上げます

真言宗智山派宗務庁  
總本山智積院法務所

- 管長・化主 小峰順誉
- 宗務総長・寺務長 高野一能
- 総務部長・執事 石川良泰
- 教学部長・執事 小峰一允
- 教化部長・執事 上野照法
- 法務部長・執事 佐藤良盛
- 財務部長・執事 岡本實良
- 出張所長・別院執事 花木義光

# 第14回WFB大会

## スリランカで開く

### 藤井全仏会長ら出席

第十四回世界仏教徒会議(WFB大会)が、去る八月一日から十一日まで、「世界の文化と平和への仏教の貢献」をテーマに、スリランカ国コロンボのバンダラナイケ国際会議場において開催された。

世界二十二ヶ国の加盟センターより、賑やかに参集するなかで、日本からは、大会来賓として全仏会長・浄土門主の藤井實應、下、首席代表として全仏常務理事の鱒淵正浩師、正式代表として矢萩信顕全仏事務総長、オブザーバーとして川井匡俊全仏事務次長、井上日安全仏国際文化局長、石川恒彦全仏国際専門委員、又、WFB本部執行委員として田代全仏国際部長、さらに小峰国際主事が参加した。

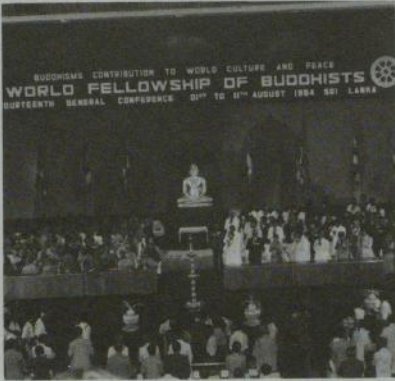
WFB大会は、二年おきに開かれるが、一九八三年には開催国であるインドネシアの事情で開催されるにいたらず、スリランカの今大会が、タイにて開かれた前大会に続き四年ぶりの、第十四回大会となった。

大会は、僧俗ともそれぞれのお国柄の装いで、再会を喜びあう和やかな雰囲気の中に開会された。この大会は、WFBスリランカセンターとスリランカ政府文化省の共催であり、開会式にはスリランカ国大統領ジャヤワルデネ閣下、文化大臣であるフルーレ閣下がご臨席され、各国代表団への歓迎のご挨拶をされた。

三日には全体会議が開かれ、ここにおいて藤井全仏会長は、この大会にむけてのご挨拶をなされ、続いて中曾根内閣総理大臣よりのメッセージが小峰主事により代読された。又、全仏により集められた難民救済金四百ドルが鱒淵首席代表よりWFB本部へ献呈された。

藤井全仏会長は、同日午後には、代表団一行をとめない、ジャヤワルデネ大統領閣下と会見なされるなど、八十六歳というご高齢にもかかわらず大変お元気にスリランカ国内のスケジュールを全てこなされ、四日の朝、川井全仏事務次長、国友浄土宗公室長、長谷尾知恩院内侍長をとめない帰国の途につかれた。

盛大な世界仏教徒会議の開会式



会議は六日間にわたり、各国代表団により熱心な討議をもつて続けられ、役員の変更、提出議題・大会宣言の採択など、予定を滞りなく消化した。

七日の開会式には、スリランカ国首相ブレマダーサ閣下がご臨席になり、式後には、各国代表者を首相公式官邸におけるティーパーティーに招待され、民族舞踊の披露されるなか、一人ひとりご懇談にいられた。

八日の朝、各国代表団は、スリランカにおける一大仏教行事である「ペラヘラ祭り」を見学するため、WFBスリランカセンターにて用意した数台のバスに乗り、キャンディーへと旅立った。

一九五〇年にWFB本部が設立され、第一回大会が開催されたのがこのスリランカのコロンボであり、スリランカはWFBの創始国といえる。その後、一九七二年の第十回大会においても開催国となったスリランカにとって、今大会は十二年ぶり通算三回目の大会である。

総じて、前回のタイ同様、スリランカ政府の世界仏教徒連盟に対する熱意が強く感じられる大会であった。この書面をもって、このたびの大会開催のため多大なるご尽力をいただいたエディリシングWFBスリランカセンター会長ほか、大会関係各位にあらためて感謝の意を表したい。

来る第十五回大会は、一九八六年の十一月にネパールにて開催されることが決定した。なお、第十四回大会の大会宣言、採択された案件、決議事項等については次号にてお知らせしたい。

## 第17回 日本仏教文化会議

### 公開シンポジウム 初の京都開催

第十七回日本仏教文化会議は、左記の通り開催が決まりました。

テーマ 「いのちの尊さを教えるには」—仏教の教育観—  
日 時 十月二十四日(水)午前  
十時~午後四時

会場 からすま京都ホテル  
基調講演 中村 元(東方学院院长)

パネラー 水谷幸正(仏教大学長)

奈良康明(駒沢大副学長)

佐伯真光(相模工大教授)

花山勝友(武蔵野女子大教授)

石上善応(大正大教授)

総司会 武藤義一

(埼玉工科大学長)

# 同和推進のために

## ＝同和問題における研修とは＝

梨谷哲栄

(全仏同和委員  
真宗大谷派)

ある同和研修会に参加した時、次のような差別事件を聞いたことを思い出す。某有名大学の社会学の教授は、近代社会史を取上げ、部落問題を話し部落の起源を語り、その歴史を講ずる毎日であった。

その教授のお嬢さんが、ある青年と恋愛をなし、相手の青年は被差別部落の青年であることがわかった。それを知った教授は、何ともいわれなき悲し

某教授一人の問題ではなからう。我々宗教者と名乗っている者も、口を開けば「一切衆生、悉有仏性」と解き「平等施一切」と説きながら、続々と惹起する我々宗教者間の差別事件とどう異なるであろうか。

一宗一派のことを言っではどうかと思うが、親鸞聖人の著「教行信証」信の巻の中に「行者当に知るべし、もし解を学ばんと欲わば、凡より聖に至る

して頭で学ぼうとする態度であり、行学とは、まさしく我が身に受け、わが身に行じようと学ぶ態度・姿勢を示すのであろう。

今日、同和研修・同和学习は、各教団において充分実施され、ある意味では不足しているとは思えない。が、しかし、依然として前述した例のようなことが後をたたず、又、これに類似したことが各教団に次々と起ってくるこ

るそれらのものと、いかにうまく折り合いをつけ、さらにそれらをいかに利用し、そしていかにそれらを手段として自分を伸ばし、拡大していくかというふうにししか発想できなくなっているのではないであろうか。

ここに我々は、同和問題を（解学）学ぶのでなく、同和問題に（行学）学ばなくてはならない。いずれにしても、現状の中に居坐り、眠りこもるとし、又、差別を温存しようとする傾向にある我々は、差別の現実から「同和問題」の事実にはふれないかぎり、観念の山にふみこんでいくことをまぬがれぬことであろう。

## 本誌の転載について

### 文化部まで連絡を

最近、加盟団体の機関紙誌等に、本誌の記事が転載されるケースが増えています。特に「法律相談室」等、税務に関する記事の転載が多いようですが、本誌を転載する場合は、次のようにお問い合わせします。

①全仏文化部まで、転載する旨、ご連絡下さい。

②筆者の了解を求めて下さい。

③転載されました記事については、各紙誌にその旨、明記下さい。

④転載紙誌を、全仏文化部宛にお寄せ下さい。

さと残念さで苦悩する日々が続き、遂には結婚に反対してしまったという。残念なことながら、このような話は、差別事例としてよく耳にすることである。

この話には、種々な問題が含まれているであろうが、一番注視しなければならぬことは、教授にとって講義の中での部落問題・同和問題とは一体何であったのであろうか。この事は何も

まで、乃至仏果まで、一切碍なし、みな学ぶことを得るとなり。もし行を学ばんと欲わば必ず有縁の法に藉れ、少しき功勞を用いるに多く益を得ればなり」と善導大師の「観經疏散善義」を引用され「解学」と「行学」という問題を提起されている。

私は、ここに同和問題の研修の課題を提起したい。解学とは、当然のことながら知識と

とは、我々に何を問いかけているのであろうか。聖人の解学で示されているごとく、人間の智的理解のみにとどまっていることを示唆して下さっていることであろう。

現代の我々の生き方は、ややもすると、あらゆる知識をつめこんだ自分を中心に立てて、その自分の前に人を見、社会を見、そして、あくまでも自分の立場・自分の都合から自分の囲りにあ

# 住職メモ帳

## 寺の玄関

寺の玄関には、実にさまざまの人が訪れる。隣接して墓地のあるところでは、彼岸やお盆などには、特に人の出入りがはげしい。ときには、「仕事にあふれたから、電車を貸してくれ」というのまで▼「こんちわ」という声に出てみると、得体のわからぬ人物が立っている。参詣者なのか、セールスマンなのか、物もらいなのか、とっさの判断がむずかしい。だから、立

ったままで応待するか、一応坐って様子を見るか、一瞬戸惑うことは、寺を護る婦人のだれもが経験しているはずである▼顔見知りの相手の場合は、時には「まあお掛け下さい」と声の一つも掛けることになる。が、これが大抵、相手は身体をひねり、自分の方は床にべタリと座らなければならぬ。奥方のスカートが短かければ、ひざがしらがむき出しになる▼このため、寺によっては、玄関を入ったところの壁に窓を設けているところも増えて来ているが、どうも病院の窓口のような造りのところが、立つたまま話をするわけだ。だから、訪れる人が檀信徒の場合には、くつろぎが得られない。事務所のよう

な感じがするのだ▼本堂を椅子席にしたりする割には、概して寺の玄関の構造は、古来あまり工夫が加えられて来なかった。設計者に任せておくと、權威格式を表わそうとする▼こういう時勢であるから、少い人員で広い伽藍を守る寺院としては、防衛と安全を心掛けながら同時に、温かい接待をするという、矛盾した要件解決を玄関の構造に工夫する必要がある。しかもそこは、機能的であつて、寺院らしい落ち着きもなければならぬ▼が、それを建築の専門家に任せっぱなしにすることは、無理というものだろう。寺院の住職やその家族は、建築については素人だけれども、外来者の応待については、専門家なのだ▼だから、使い勝手をあらゆる面から考えて、建築の専門家にどんな希望を述べるのである。こういう場合にはどうか、ああいう場合にはどうか。椅子の高さは、形は。カウンター式にするのならば、その高さは……それを設計者の感覚で図面にしてもらえばよいのである▼玄妙な世界に入る関所——これからの寺の玄関の構造は、寺院運営についての住職の姿勢を表現するものとなるに違いない、と思うのだが……。

(文化専門委員 寿山良知)

# 良書紹介

『密教とはなにか—宇宙と人間—』

松長有慶著

(人文書院・一五〇〇円)

『思へばこの世は仮の宿』

下重暁子著

(講談社・一〇〇〇円)

『三蔵法師インドを行く』

菅原 篤著

(筑摩書房・一二〇〇円)

『中世を生きる』

中野孝次著

(講談社・一三〇〇円)

『道教と日本文化』

福永光司著

(人文書院・一八〇〇円)

『現代の生と死』へ「からだの科学」臨時増刊号

高木建太郎著

(日本評論社・一七〇〇円)

『現代世界の危機と未来への展望』

岩波書店編集部編

(岩波書店・一六〇〇円)

『現代を病むころ』

荻野恒一著

(有斐閣・一四〇〇円)

『自己愛人間』

小比木啓吾著

(朝日出版社・一二〇〇円)

『インド留学僧の記』

宮坂有洪著

(人文書院・一四〇〇円)

『仏像の印相をたずねて』

秋山正美著

(文進堂・四七〇〇円)

『えっ、これが仏教語?』

宝田正道著

(浄土宗出版室・三〇〇円)

『仏教の生活法話集』(全四巻)

大森忠行編

(中山書房・一〇〇〇円)

『わが家の宗教』

花山勝友著

①浄土真宗 東 隆真著

②曹洞宗 若林隆光著

③浄土宗 渡辺宝陽・庵谷行享著

④日蓮宗 松原泰道著

⑤臨済宗 (大法輪閣・各九八〇円)

『仏教故事名言辞典』

須藤隆仙著

(新人物往来社・六八〇〇円)

今回図書を紹介していただきましたのは、以下の専門委員です。(順不同・敬称略)

若林隆光、宝田正道、寿山良知、中野東禪、島田喜久子、阿純孝、原弘隆、柳原帰逸

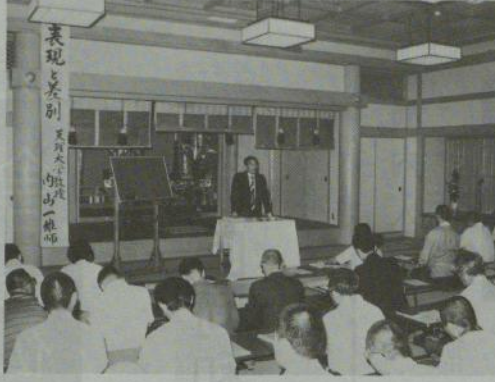
# 同宗連の同和研修会ひらく

## 長野善光寺で八十数名が参加

同宗連では、去る七月二十四、二十五の両日、長野県善光寺大本願「寿光殿」に於いて第六回同和研修会を実施した。仏教、神道、キリスト教から八十数名の出席があった。

開会にあたり、同宗連花邑晃慧議長から、同和問題は国民的課題であり、同時に教団の中心的課題である旨の挨拶、次いで善光寺大本願執事から研修会歓迎の挨拶があり、内山一雄天理大学教授の「表現と差別」という題の講義に入った。

二時間半の話の中で、先生は、いわゆる「差別語」を使わなくては差別発覚ができない、という井上靖の言葉を逆説的



講義する内山一雄天理大教授

とことわりながら引用し、「差別語」を使うのは必ずしも差別ではなく、「差別語」を使わなくても使い方で差別となるのであって、単に言葉を言い替えてすむという考え方が相手を侮辱したものである、と強調され、「差別語」を無自覚に否定し、なくするばかりでなく、その「差別語」を生み出した現実や本質的な問題を、社会に訴えていくべきだとまとめられた。

質疑応答のあと夕食となり、食後四班に分かれ、「教団の出版物にみる過去の差別的記述とこれからの課題」という統一のテーマで分散会がもたれた。各班それぞれの講師により、種々の差別の実例が報告され、意見の交換があった。

翌日、季平博道師が司会、花邑議長、黒山秀行師、橘了法師がアドバイザーとなつて、分散会の報告そして全体討議が行なわれた。「性霊集」の問題に議論が集中するなかで、参加者の一人から天皇制との問題をぬきにして語れないという意見が出された。各アドバイザーのまとめの意見があり、次に、解放同盟中央本部の坂本氏が、全体討議の内容にふれながら、長野県における同和問題のとりくみについて一時間講演した。最後に、副議長長教団の小坂正一師からこれは一人ひとりの問題であるとの確認の挨拶があり、このたびの研修を閉会した。

### 第三、四回同和委員会

第三回同和委員会は、六月二十八日、真宗大谷派会議室において開催され、部落解放同盟よりの緊急質問状について審議がなされた。この質問状は「旃陀羅」についての明解な解釈を、「性霊集」の「旃陀羅悪人」についてどのように考えるか等、三項目よりなるものである。

審議の結果、誠意ある回答をするためにも六月末日の回答期限を七月末日迄猶予願いたい旨申し入れること、また加盟宗派の見解を早急に求めることになった。第四回同和委員会は、七月十七日、明照会館会議室において開催され、前回に続き、緊急質問状について審議がなされた。加盟宗派より寄せられた回答には、重大なる問題であり、研究機関などで宗祖の言葉や経典の見直しを含め、更に検討を重ねたいとの意見が多く、全仏にも検討委員会を設置する必要があるのではないか等、活発なる討議がなされた。また、緊急質問状については、審議する七月二十日開催の理事会には、同和委員会より、委員長、副委員長に出席願うことが報告された。

### 全日仏大会を審議

第三回組織専門委員会は、六月二十五日午前十一時より明照会館会議室で開催された。花木師より一身上の都合で委員長の職を辞退したい旨の報告があり、後任に河野師を選出し、議題に入った。

本年第三十一回全日本仏教徒大会は、

浄土宗総本山知恩院の和順会館をお借りして、十月二十五日に開催することになり、大会幹事会で内容を検討することとした。又、午後二時より大会幹事会が開催された。幹事には組織専門委員十三名と、国際・文化両専門委員会の中から六名が推薦された。

大会テーマについては昨年と同様の、「釈尊の教えを現代に生かそう」又、サブテーマは「全一仏教運動の今日の問題」とし、第一部会は「教育問題」、第二部会は「人権問題」、第三部会は「寺院運営問題」とし、内容に関しては今後会議を重ね検討していくことにした。

### 税務委員会開かれる

八月二十二日、明照会館において本年度第三回の税務委員会が開かれた。矢萩総長の挨拶ののち、細川委員長が議長となつて議事の審議が行われた。

先ず七月五日自由民主党に①公益法人の営む収益事業の範囲の拡大②公益法人本来の事業による収益の金融資産収入に対する課税の検討③公益法人の営む収益事業に対する法人税率の引き上げに反対する要望書の提出の報告並展望がなされた。次に宗教政治研究会との二度の会合について話し合い、今後も交流を継続することにした。次回には「公益法人における宗教法人の位置」や「宗教法人における公私の区別」の問題を扱う。

なお、来る十月三十日、日本一宗教連盟が「宗教と税制シンポジウム」を開催するが、多方面への参加呼びかけを決議した。

第31回

# 全日本仏教徒会議

10月25日(木)

於・浄土宗総本山知恩院「和順会館」

## 第四回同和研修会

10月12日(金)13日(土)

於・大本山永平寺(福井県)

### 局内人事

文化主事 長谷川義彰 7・20 新任

### 哀悼

多川 乗俊師

七月十六日、七十九歳で遷化。法相宗 管長。奈良・興福寺貫主。

滝 照道師(全仏元国際部長)

七月三十日、七十三歳で遷化。元中央 学院大教授。

二十四日 局内会議

局内会議

二十五日 宗政研との懇談会

二十五日 同宗連研修会参加

二十六日 包管研(京都)

法律相談室

二十七日 全仏大会幹事会

三十日 第十四回WFB大会

三十一日 同和委員会

八月

六日 同和特別委員会

八日 常務理事会

九日 日宗連税制委員会

法律相談室

十七日 局内会議

二十日 ルンビニー総務部会

二十日 第四回WCRP出発

二十二日 税務委員会

日韓仏教交流協議会出席

二十七日 全仏大会幹事会

三十日 機構検討委員会

三十一日 日宗連税制委員会

### 事務局録事

七月

五日 自民党との懇談会

都民お盆まつり出席

徳島県仏との懇談会

十七日 同和委員会

十九日 同宗連懇談会出席

二十日 理事会

二十一日 真言各山会同和委員会出席

二十三日 文化会議運営委員会

昭和五十九年九月一日発行

発行人 矢萩信頭

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四一七-四 電話〇三(四三七)九二七五

# 恒河

現代を生きる仏教カラーグラフィクス

創刊第4号 好評発売中

●A4ワイド判160頁

定価2,200円(送料300円)

<推薦>全日本仏教会

特集 **親鸞** 現代煩惱人 へのメッセージ

◎繁栄の中の煩惱地獄 社会部記者の取材記から 斎藤茂男

◎父・吉野秀雄の晩年 近代人の「毒」を知った歌人の生死と「歎異抄」 吉野壮児

◎煩惱のライトに照らされて 松林宗恵 映画監督三十年、虚実の中に生きた自分史

◎念仏流転 親鸞の生涯をたどる フォト・ストーリー

◎親鸞と法然 人間としての出会い 山折哲雄

◎親鸞を愛した妻と娘 籠谷真知子

◎親鸞のことは 桐溪順忍/広瀬 果

◎特別対談 唐招提寺創建をめぐる鑑真の ナゾを推理する 梅原猛VS上原 和

◎対談「死を想え」 藤原新也VSひろさちや

◎連載第四回 仏陀 瀬戸内寂聴

◎作品ストーリー「極道人生」 棟方志功

◎巻頭 特別折込「浄土の風景」ヒマフヤ 白川義員

## 池利文写真集 空海の宇宙大伽藍

撮影五年、真言密教の修法と秘宝を初公開!! 弘法大師御入定一一五〇年、御遠忌大法会完全特撮!!

松長有慶 (高野山大学学長)

五来重 (大谷大学名誉教授)

日野西眞定 (高野山大学助教授)

●収載写真数約二五〇点

●B4判上製クロス装

●美麗貼箱入り

●総頁数一八四頁

●カラ一(一五二頁)

●記念特価三,〇〇〇円 (昭和59年12月末日迄)

●定価二五,〇〇〇円

御願、高野山奥之院/御遠忌大法会/神護寺(蓮頂壇)

東寺(後七日御修法)/金剛峯寺(大師の遺品・秘宝)

求聞持法/護摩/阿字觀/得度/授戒/他

学研 第二出版局営業企画室 〒145 東京都大田区上池台4-40-5 ☎(03)720-1111(代)